

『教育政治学を拓く』（小玉重夫）のキーワード(読書メモの一つとして)

2017.4.19 岡安

マルチチュード

- ・ 共に生きることを可能にするネットワーク
VS. <帝国> 支配と恒常的な対立を通して秩序を維持する（階層構造と分裂）

教育改革における遂行性（performativity）と説明責任(accountability)

- ・ アメリカのチャータースクール（p.64 「自由化のパラドックス」）
- ・ 自由裁量と遂行性←→「規則のシニカルな遵守」
「高度にリベラルな」統治→主体の自由な可能性へ、葛藤と不安
→遂行性のシニシズムへと反転（逆行性のシニシズム）
- ・ これが必然なのか？

遂行中断性（afformative）

- ・ 遂行中断性は遂行性を可能にすると共に、それを宙吊りにしつつ、廃棄し刷新することを可能にする。意味付与の中断。意味到来の遅延。
- ・ 遂行中断性は、学校や教師が遂行性のサイクルに巻き込まれ教師としてのアイデンティティに過剰に自らを固定化させる状況を回避するうえで、重要な視点を提起する。

熟議民主主義（deliberative democracy）

- ・ 市民が参加して議論して決める（あまり熱くならずに）

闘技民主主義（agonistic democracy）

- ・ 熟議民主主義に対する批判（公的領域から情熱を消去した合理的合意ではなく、その情熱を民主主義の企図に向けて動員する）

熟議民主主義と闘技民主主義の間であって、その両者を媒介するしたたかな思考

- ・ 両者とも楽観主義（合意形成、抗争性の楽観主義）が共有される。
- ・ 民主主義が扇動的なポピュリズムや全体主義をもたらすことに警戒的でありつつ、だからと言って、民主主義や民主主義的市民を否定しない。

論争的課題をシティズンシップ教育に位置づける際の条件

- ・ 答えが一つに定まっていない無知の領域を自覚しつつ、そこでの「民主主義の実験に絶えずさらされ、関与することを目指す」教育

遂行中断性から中断のペダゴジーの方へ

- ・ 中断のペダゴジーにおける問いは、ある答えと誘導する問いであってはならず、むしろ迷わせ、混乱させるような問いである必要がある。
- ・ 「教育のなかで答えが繰り返されるような、開かれた問い」（ピースタ）
- ・ 政治的コーディネーターとしての教師のスタンスこそが、党派教育ではない政治教育の可能性を拓く。